

授業科目名： 自立活動の理論と心の バリアフリーの実践	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 一木 薫 見上 昌睦 牛島 玲
			担当形態： オムニバス
科 目	特別支援教育に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	特別支援教育の基礎理論に関する科目		
授業のテーマ及び到達目標			
授業のテーマ			
特別支援教育の授業の中核となる自立活動の指導についての基本的な考え方と、通常の学級における特別支援教育の推進に必要な心のバリアフリーの考え方や実践について学ぶ。			
到達目標			
- 特別支援教育を担う教師に共通して求められる専門性である「自立活動」の理念及び - 内容、指導を具現化する上で不可欠な個別の指導計画や教師間の連携について基礎的な理解を深めることができる。 - 心のバリアフリーを指導したり、すべての教員等が「心のバリアフリー」を理解したりするための研修、授業研究などを主導したりするための知識を得ることができる。			
授業の概要			
- 特別支援学校学習指導要領とその解説をもとに「自立活動」の理念及び目標・内容について講義形式で学ぶ。あわせて自立活動の視点による子ども理解と指導計画立案の実際について講義及び演習形式で学ぶ。 「心のバリアフリーノート」を活用したすべての子供達に心のバリアフリーを指導するための授業づくり、全ての教員等が「心のバリアフリー」を理解するための研修の実施方法などについて演習形式で学ぶ。			
授業計画			
第1回：オリエンテーション（担当 牛島 玲） 特別支援教育の教育課程（担当 牛島 玲）			
第2回：自立活動の成立（担当 一木 薫）			
第3回：自立活動の理念と目標（担当 一木 薫）			
第4回：自立活動の内容・項目（担当 一木 薫）			
第5回：自立活動の指導と各教科等の指導（担当 一木 薫）			
第6回：個別の指導計画の理念（担当 一木 薫）			
第7回：個別の指導計画の実際（担当 一木 薫）			

第8回：教師の専門性と組織及び研修体制（担当 一木 薫） 第9回：心のバリアフリーと心のバリアフリーノートについて（担当 牛島 玲） 第10回：障害のある子と障がいのない子との交流及び共同学習（担当 牛島 玲） 第11回：心のバリアフリーノートを活用した授業実践① バリアフリーについて基本的な理解を深める学習（担当：牛島 玲） 第12回：心のバリアフリーノートを活用した授業実践② バリアフリーについて考える学習（担当：牛島 玲） 第13回：心のバリアフリーノートを活用した授業実践③ バリアフリーについて行動する学習（担当：牛島 玲） 第14回：教員対象の心のバリアフリー研修を進めるための方策（担当：見上 昌睦、牛島 玲） 第15回：学校におけるバリアフリーの実践（担当：見上 昌睦、牛島 玲） 授業のまとめ（担当：牛島 玲） 定期試験なし
テキスト ・ 必要に応じて講義・演習の中で資料を配布する。
参考書・参考資料等 ・ 「自立活動の理念と実践」 古川勝也・一木薫 編著、ジアース教育新社、（平成28年度） ・ 特別支援学校学習指導要領（平成29年） ・ 特別支援学校学習指導要領解説 自立活動編（平成30年）
学生に対する評価 ・ 成績評価は、到達目標と判断基準にもとづいて評価する。

授業科目名： 障害のある児童生徒の 理解と合理的配慮	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 中村 貴志、青木 康彦、 相澤 宏充、大平 壇、 貫名 英之、見上 昌睦、 河村 暁、 牛島 玲
			担当形態： オムニバス
科 目	特別支援教育に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	特別支援教育領域に関する科目 心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理、及び病理に 関する科目 心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関 する科目 (含む領域：視・聴・知・肢・病・発達)		
授業のテーマ及び到達目標			
授業のテーマ			
特別支援教育の対象となる障害の定義および障害特性を理解するとともに、その障害の状 態に合わせた合理的配慮について理解し、心のバリアフリーの授業づくりについて学ぶ。			
到達目標			
- 特別支援教育の対象となる児童生徒の障害について理解し説明ができる。 - 特別支援教育の対象となる児童生徒の合理的配慮の内容について理解し説明ができる。 - 心のバリアフリーの授業づくりができる。 - 特別支援教育の対象となる児童生徒の合理的配慮を組織的・計画的に提供できるように校 内体制を進めることができる。			
授業の概要			
視覚障害・聴覚障害・知的障害・肢体不自由・病弱・言語障害・発達障害について、定義、 分類、障害特性などについて講義を通して学ぶとともに、学習指導要領に示されている合理 的配慮の例を確かめながら、一人ひとりの実態に合わせた合理的配慮の内容について理解 する。さらに、心のバリアフリーを指導するために必要な知識を得る。最後に、校内で合 理的配慮を提供するための体制づくりについて学ぶ。			
授業計画			
第1回：オリエンテーション（担当 牛島 玲） 障害者差別解消法と合理的配慮（担当 牛島 玲）			
第2回：視覚障害児の定義・分類・障害特性（担当 中村貴志）			
第3回：視覚障害児の支援方法、合理的配慮、心のバリアフリーの指導（担当 中村貴志）			
第4回：聴覚障害児の定義・分類・障害特性（担当 相澤宏充）			
第5回：聴覚障害児の支援方法、合理的配慮、心のバリアフリーの指導（担当 相澤宏充）			

第6回：知的障害児の定義・分類・障害特性（担当 青木康彦）
 第7回：知的障害児の支援方法、合理的配慮、心のバリアフリーの指導（担当 青木康彦）
 第8回：肢体不自由児の定義・分類・障害特性（担当 大平壇）
 第9回：肢体不自由児の支援方法、合理的配慮、心のバリアフリーの指導（担当 大平壇）
 第10回：病弱児の定義・分類・障害特性（担当 貫名英之）
 第11回：病弱児の支援方法、合理的配慮、心のバリアフリーの指導（担当 貫名英之）
 第12回：言語障害児の定義・分類・障害特性（担当 見上昌睦）
 第13回：言語障害児の支援方法、合理的配慮、心のバリアフリーの指導（担当 見上昌睦）
 第14回：発達障害児の定義・分類・障害特性（担当 河村暁）
 第15回：発達障害児の支援方法、合理的配慮、心のバリアフリーの指導（担当 河村暁）

定期試験なし

テキスト

- ・ 必要に応じて講義の中で資料を配付する。

参考書・参考資料等

- ・ 参考文献については授業中に適宜紹介する。

学生に対する評価

- ・ 成績評価は、到達目標と判断基準にもとづいて評価する。

授業科目名： 特別支援教育における 資源の活用と連携	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 河村 暁
			担当形態： 単独
科 目	特別支援教育に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	免許状に定められることとなる特別支援教育領域以外の領域に関する科目 心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目 (中心となる領域：発達、含む領域：聴・知・病)		
授業のテーマ			
教育・医療・福祉関係諸機関などの各機関の特徴、役割、組織の活動について、知識を学ぶとともに情報を得る手法を体験的に学ぶ。それによって各機関と連絡・調整を行うことができる力を獲得するとともに地域の学校間ネットワークと学校外資源との連携を形成・強化できるようにする。			
到達目標			
・ 校内委員会を中心とした支援体制の整備方法を説明できる。 ・ 教育・医療・福祉関係諸機関や関係諸学校の特徴と連携方法について調査や訪問により具体的に理解し、連携方法や手続きについて理解する。 ・ 特別支援教育における学校の学外機関との連携の現状と課題を分析し、改善点をまとめることができる。			
授業の概要			
教育・医療・福祉関係諸機関や関係諸学校の特徴および連携方法を、訪問・観察や事例検討によって学ぶ。学校外資源を訪問し連携の実態および連携推進の手順や留意点を知り、連携に役立つ資源マップを作成する。			
授業計画			
第 1 回 オリエンテーション：授業の見通しを持つ			
第 2 回 ニーズとそれに関連する概念			
第 3 回 障害の概念と連携			
第 4 回 教育機関と校内体制			
第 5 回 医療機関と専門職			
第 6 回 福祉機関と専門職			
第 7 回 専門機関とそれに関連する資源			
第 8 回 保護者に関連する資源			
第 9 回 施設の訪問			
第 10 回 連携事例の検討：教育機関における連携			

第 11 回 連携事例の検討：関連機関との連携
第 12 回 連携事例の検討：連携のツール
第 13 回 報告会 1：教育機関と連携
第 14 回 報告会 2：関連機関と連携
第 15 回 報告会 3：保護者と連携
定期試験なし
訪問先の施設の都合等により授業の実施回の順番が入れ替わることがある。
実際に学ぶためゲストティーチャーを招くことがある。
テキスト
必要に応じて配布する
参考書・参考資料等
はじめての特別支援教育 柘植雅義等 有斐閣
学生に対する評価
成績評価は、到達目標と判断基準にもとづいて総合的に評価する。
(提出物・報告会での発表と資料 50% 最終レポート 50%)

授業科目名： 学級における特別支援教育のケース研究	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 河村暁 担当形態： 単独
科 目	特別支援教育に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	免許状に定められることとなる特別支援教育領域以外の領域に関する科目 心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目 (中心となる領域：発達、含む領域：聴・知・病)		
授業のテーマ			
SLD(限局性学習症)、ADHD(注意欠如多動症)、ASD(自閉スペクトラム症)など通常学級に在籍する特別な教育的ニーズのある児童生徒の実態把握と特性に基づいた支援法について具体的に理解し、個別の教育支援計画や指導計画およびその作成の方法について事例をもとに理解する。			
到達目標			
・ 学校外の関係機関との連携方法を理解する。 ・ 個別の教育支援計画について理解する。 ・ 特別支援教育の校内体制の具体例について他の教職員に情報提供ができる。 ・ 発達障害の知識と支援方法について他の教員に効果的な代表的手法を情報提供できる。 ・ 他の教員や外部の専門家との協働の事例を知り個別の教育支援計画の策定や特別支援教育の校内体制改善の計画を提案できる			
授業の概要			
現代的なアセスメントの理念と学校現場で実行可能なアセスメントを学ぶとともに、特別な教育的支援が必要な児童生徒の個別の指導計画作成について実際の事例検討を通して学ぶ。			
授業計画			
第1回 オリエンテーション			
第2回 個別の教育的ニーズの把握			
第3回 アセスメントと RTI、PM、MTSS、MIM			
第4回 アセスメントと医学的定義・教育的定義			
第5回 SLD の分類と併存症・関連する状態について			
第6回 ADHD の症状と併存症・関連する状態について			
第7回 ASD の症状と併存症・関連する状態について			
第8回 ASD 等の事例をあげ、ケース検討を通じ協議を行う。			
第9回 SLD のある児童生徒の個別の教育支援計画・指導計画：1次～3次の支援			

第 10 回 ADHD のある児童生徒の個別の教育支援計画・指導計画：1 次～3 次の支援

第 11 回 ASD のある児童生徒の個別の教育支援計画・指導計画：1 次～3 次の支援

第 12 回 通級指導教室等での指導について

第 13 回 不登校、二次障害等に関する事例を学ぶ

第 14 回 不安症、ICT 等に関する事例を学ぶ

第 15 回 まとめ：個別の教育支援計画と個別の指導計画の活用

定期試験なし

実際的な学びを重視するためゲストティーチャー (GT) や発達障害等のある当事者を招聘することがある。そのためその都合によって授業の順番が前後することがある。

テキスト

特別支援学校学習指導要領自立活動編

これならできる「個別の教育支援計画書」「個別の指導計画」作成ハンドブック福岡県教育センター

参考書・参考資料等

個別の指導計画作成ハンドブックーLD 等、学習のつまずきへのハイクオリティーな支援. 海津 亜希子; 日本文化科学社

学生に対する評価

成績評価は、到達目標と判断基準を評価基準とする。

講義期間中の課題の提出 50% 最終レポート 50% を組み合わせ総合的に判断する。

授業科目名： 特別支援教育の教育課程と個別の教育支援計画・指導計画	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 牛島玲、河村暁
			担当形態： 複数
科 目	特別支援教育に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	特別支援教育領域に関する科目 心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目 (中心となる領域：発達、含む領域：知)		
授業のテーマ			
個別の教育支援計画と個別の指導計画について実態把握、評価と結びつけながら作成し、校内体制や諸機関との連携の重要性や、それぞれの学校現場の教育実践に応じた在り方を学ぶ。			
到達目標			
・特別支援教育の理念と個別の教育支援計画、個別の指導計画とを関連させて理解できる。 ・個別の教育支援計画と個別の指導計画を作成でき、それに必要な実態把握、評価の方法を理解できる。 ・個別の教育支援計画と個別の指導計画に関わる校内体制や関係者・関係機関との連携の重要性について理解できる。 ・それぞれの学校現場の教育実践に即した個別の教育支援計画と個別の指導計画の在り方を理解できる。			
授業の概要			
・特別支援教育の理念について学ぶとともに、特別支援教育において欠かすことのできない個別の教育支援計画と個別の指導計画について具体的に理解し、作成する。 ・実態把握、評価と結びつけながら教育実践の実態に応じた個別の教育支援計画と個別の指導計画の在り方を学ぶ。 ・個別の教育支援計画と個別の指導計画に関わる校内体制や諸機関との連携について学ぶ。			
授業計画			
第1回　オリエンテーション：授業について見通しを持つ。			
第2回　特別支援教育の理念と教育課程			
第3回　各教科等を合わせた指導			
第4回　個別の教育支援計画と個別の指導計画			
第5回　個別の教育支援計画と校内支援体制			
第6回　個別の教育支援計画と関係者・関係機関との連携			
第7回　個別の教育支援計画の作成①　作成の方法を学ぶ			
第8回　個別の教育支援計画の作成②　作成した計画を改善する			

第9回 個別の指導計画の実態把握と目標の設定について

第10回 個別の指導計画を作成する① 作成の方法を学ぶ

第11回 個別の指導計画を作成する② 作成した計画を改善する

第12回 個別の指導計画と評価

第13回 小学校、中学校、高等学校における個別の教育支援計画・個別の指導計画の実際

第14回 特別支援学級、通級における個別の教育支援計画・個別の指導計画の実際

第15回 特別支援学校における個別の教育支援計画・個別の指導計画の実際

教育実践の実態を学ぶためゲストティーチャー(GT)を招聘することがある。またその都合によって授業の回が前後することがある。

定期試験なし

テキスト

福岡県教育センター(2011) これならできる！「個別の教育支援計画」 「個別の指導計画」 作成ハンドブック. 福岡県教育センター研究紀要 N0.181.

参考書・参考資料等

学生に対する評価

成績評価は、到達目標と判断基準を評価基準とする。

講義期間中の課題の提出 50% 最終レポート 50% を組み合わせ総合的に判断する。

授業科目名： 特別支援教育におけるICTの利用と実践	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 福島 勇
			担当形態： 単独
科 目	特別支援教育に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	免許状に定められることとなる特別支援教育領域以外の領域に関する科目 心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目 (中心となる領域：肢、含む領域：知・重複)		
授業のテーマ及び到達目標			
テーマ：特別支援教育におけるICT利用の意義と方法を学ぶ			
到達目標：幼児児童生徒個々の学習ニーズに必要なICT機器やアプリ、アクセシビリティ機能、入出力支援機器を選定し指導・支援できるようになる			
授業の概要			
GIGAスクール構想によって配備された学習者用タブレット端末や入出力支援機器を障害種ごとの困りに応じて活用する方法について、講義と演習を通して学ぶ			
授業計画			
第1回：障害観と自立観			
第2回：社会の変化と障害者支援に関係する法令			
第3回：障害による困難さを軽減・解消するための支援技術			
第4回：AACの定義			
第5回：Windowsのアクセシビリティ①見ることの困難への対応			
第6回：Windowsのアクセシビリティ②聞くことの困難への対応			
第7回：Windowsのアクセシビリティ③操作することの困難への対応			
第8回：iOS/iPadOSのアクセシビリティ①見ることの困難への対応			
第9回：iOS/iPadOSのアクセシビリティ②聞くことの困難への対応			
第10回：iOS/iPadOSのアクセシビリティ③操作することの困難への対応			
第11回：AndroidOSのアクセシビリティ①見ることの困難への対応			
第12回：AndroidOSのアクセシビリティ②聞くことの困難への対応			
第13回：AndroidOSのアクセシビリティ③操作することの困難への対応			
第14回：マウス操作やキーボード操作を補助・代替する周辺機器			
第15回：シンプルテクノロジーの原理と活用			
定期試験			
テキスト			

一般社団法人日本支援技術協会編集「デジタルアクセシビリティアドバイザー認定試験公式テキストBasicレベル編第3版」、エンパワメント研究所（2023年）、1,650円、https://www.space96.com/php/user/item_detail.php?store_id=empower&item_cd=e220516001&flow_id=1YqjAK&from_page_id=index_read91636900

参考書・参考資料等

①一般社団法人日本支援技術協会編集「デジタルアクセシビリティアドバイザー認定試験公式テキストStandardレベル編第1版」、エンパワメント研究所（2023年）、2,200円、https://www.space96.com/php/user/item_detail.php?store_id=empower&item_cd=e23090801&flow_id=1YqjAK&from_page_id=index_read91636900

②金森克浩、大杉成喜、荻田知則編著「特別支援教育免許シリーズ合理的配慮支援機器を用いた合理的配慮論」、建帛社（2021年）、2,860円、<https://www.kenpakusha.co.jp/np/isbn/9784767921310/>

③金森克浩編著「新しい時代の特別支援教育における支援技術活用とICTの利用」、ジアース教育新社（2022年）、1,980円、<https://www.kyoikushinsha.co.jp/book/0626/index.html>

④社会福祉法人日本肢体不自由児協会編「肢体不自由児のためのタブレットPCの活用」、社会福祉法人日本肢体不自由児協会（2015年）、<https://www.nishikyo.or.jp/action/products.html>

⑤社会福祉法人日本肢体不自由児協会編「視線でらくらくコミュニケーション」、社会福祉法人日本肢体不自由児協会（2019年）、<https://www.nishikyo.or.jp/action/products.html>

⑥社会福祉法人日本肢体不自由児協会編「コミュニケーションを豊かにするためのICT活用～＜続＞肢体不自由児のためのタブレットPCの活用」、社会福祉法人日本肢体不自由児協会（2020年）、<https://www.nishikyo.or.jp/action/products.html>

⑦社会福祉法人日本肢体不自由児協会編「ワクワクもっとテクノロジー～わかる、できる、もっと楽しめる」、社会福祉法人日本肢体不自由児協会（2020年）、<https://www.nishikyo.or.jp/action/products.html>

学生に対する評価

出席状況20%、レポート40%、定期試験40%

授業科目名： 障害の理論と実践	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 韓星民、相澤宏充、 青木康彦、大平壇、 深澤美華恵、見上昌睦、 河村暁、牛島玲
			担当形態： オムニバス
科 目	特別支援教育に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	特別支援教育領域に関する科目 心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理、及び病理に関する科目 心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目 (含む領域：視・聴・知・肢・病・発達)		
授業のテーマ及び到達目標			
授業のテーマ			
・ 特別支援学級及び通級による指導の対象となる児童生徒が有する障害について、その心理・生理・病理に関する知識を身につけるとともに、これら児童生徒を指導するために必要な知識を得る。			
到達目標			
・ 障害のある児童生徒の特性について説明できる。 ・ 障害のある児童生徒を対象にした授業づくりができる。			
授業の概要			
障害のある児童生徒の障害特性について理解を深めるための講義と演習を行う。 視覚障害・聴覚障害・知的障害・肢体不自由・病弱・言語障害・発達障害の特性について講義を通して学ぶ。			
授業計画			
第1回：オリエンテーション（担当 牛島玲） 障害のある児童生徒の教育課程（担当 牛島玲）			
第2回：視覚障害の心理・生理・病理（担当 韓星民）			
第3回：視覚障害の指導方法・授業づくり（担当 韓星民）			
第4回：聴覚障害の心理・生理・病理（担当 相澤宏充）			
第5回：聴覚障害の指導方法・授業づくり（担当 相澤宏充）			
第6回：知的障害の心理・生理・病理（担当 青木康彦）			

第7回：知的障害の指導方法・授業づくり（担当 青木康彦）

第8回：肢体不自由の心理・生理・病理（担当 大平壇）

第9回：肢体不自由の指導方法・授業づくり（担当 大平壇）

第10回：病弱の心理・生理・病理（担当 深澤美華恵）

第11回：病弱の指導方法・授業づくり（担当 深澤美華恵）

第12回：言語障害の心理・生理・病理（担当 見上昌睦）

第13回：言語障害の指導方法・授業づくり（担当 見上昌睦）

第14回：発達障害の心理・生理・病理（担当 河村暁）

第15回：発達障害の指導方法・授業づくり（担当 河村暁）

授業のまとめ（担当 牛島玲）

定期試験なし

テキスト

- ・ 授業の中で適宜資料を配付する。

参考書・参考資料等

- ・ 参考文献については授業中に適宜紹介する。

学生に対する評価

- ・ 成績評価は、到達目標と判断基準にもとづいて評価する。

授業科目名： 自立活動の展開と実践	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 中山 健 青木 康彦
			担当形態： 複数
科 目	特別支援教育に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	特別支援教育領域に関する科目 心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目 (中心となる領域：知的)		
授業のテーマ及び到達目標			
授業のテーマ 特別支援教育の授業の中核となる自立活動の指導の充実を図るために、障害のある児童生徒の実態把握の方法、指導法の基本の理解、自立活動の六区分の指導の実践について学ぶ。 特別支援学校の自立活動の実践を主導するために必要な基礎的な知識を理解する。			
到達目標 1 自立活動の指導に向けた障害のある児童生徒の実態把握の方法について理解を深める。 2 自立活動の指導に必要な指導法の基本について理解を深める。 3 自立活動の六区分の内容について理解を深め実践に必要な知識を深める。 4 1から3をふまえて障害のある児童生徒の自立活動の指導の計画を立案することができる。			
授業の概要 自立活動の指導を進めるための実態把握、指導法の基礎、指導の実際へと進めながら自立活動の実践について深めることができるようにする。			
授業計画 第1回：オリエンテーション 第2回：自立活動の立案に向けた実態把握 1 質問紙調査 第3回：自立活動の立案に向けた実態把握 2 心理検査 第4回：自立活動の立案に向けた実態把握 3 観察法 第5回：自立活動の時間における指導の指導法 1 応用行動分析 第6回：自立活動の時間における指導の指導法 2 コミュニケーションの指導 第7回：自立活動の時間における指導の実際－区分1 健康の保持 第8回：自立活動の時間における指導の実際－区分2 心理的な安定 第9回：自立活動の時間における指導の実際－区分3 人間関係の形成 第10回：自立活動の時間における指導の実際－区分4 環境の把握 第11回：自立活動の時間における指導の実際－区分5 身体の動き 第12回：自立活動の時間における指導の実際－区分6 コミュニケーション 第13回：自立活動の時間以外における指導の実際－教科・領域等を合わせた指導との関連 第14回：自立活動の時間以外における指導の実際－各教科・領域別の指導との関連 第15回：まとめ 定期試験 あり			
テキスト 必要に応じて講義・演習の中で資料を配布する。			
参考書・参考資料等 参考文献については授業中に適宜紹介する。			
学生に対する評価 成績評価は、到達目標と判断基準にもとづいて評価する。			

授業科目名： 特別な教育的ニーズ の把握	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 中山健、河村暁 担当形態： 複数
科 目	特別支援教育に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	特別支援教育領域に関する科目 心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に関する科目 心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目 (中心となる領域：知的、含む領域：発達)		
授業のテーマ ・特別な教育的ニーズとは何か、特別な教育的ニーズをどのように把握するか、またそれに応じた実践にどのように接続するかを学ぶ。			
到達目標 ・特別な教育的ニーズについて理解する。 ・特別な教育的ニーズのある児童生徒の実態把握について理解する。 ・特別な教育的ニーズのある児童生徒の実態把握を踏まえた実践への応用について理解する。			
授業の概要 ・特別な教育的ニーズを把握する方法を幅広く具体的に学ぶ。 ・学んだ方法がどのように実践場面に応用できるか、関連付けながら学ぶ。			
授業計画 第1回　オリエンテーション：授業について見通しを持つ。 第2回　知能や認知処理過程と発達の理論について理解を深める。 第3回　障害のある児童生徒の発達とアセスメントについて理解を深める。 第4回　WISC-V 知能検査の理論や内容について理解を深める。 第5回　WISC-V 知能検査の内容と実践応用について理解を深める。 第6回　DN-CAS 認知評価システムの理論や内容について理解を深める。 第7回　DN-CAS 認知評価システムの内容と実践応用について理解を深める。 第8回　KABC-II 心理教育アセスメントバッテリーの理論や内容について理解を深める。 第9回　KABC-II 心理教育アセスメントバッテリーの内容と実践応用について理解を深める。 第10回　田中ビネーV の理論や内容について理解を深める。 第11回　田中ビネーV の内容と実践応用について理解を深める。 第12回　適応機能の検査の理論や内容について理解を深める。			

第 13 回 適応機能の検査の内容と実践応用について理解を深める。

第 14 回 諸検査(語彙や ASD、ADHD 等の尺度)の理論や内容について理解を深める。

第 15 回 諸検査(語彙や ASD、ADHD 等の尺度)の内容と実践応用について理解を深める。

定期試験なし

テキスト

参考書・参考資料等

辻井正次監修(2014)発達障害児者支援とアセスメントのガイドライン

学生に対する評価

成績評価は、到達目標と判断基準を評価基準とする。

講義期間中の課題の提出 50% 最終レポート 50% を組み合わせ総合的に判断する。

授業科目名： 特別な教育的ニーズに 基づいた指導の実際	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 青木 康彦 有元 康一 担当形態： 複数
科 目	特別支援教育に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	特別支援教育領域に関する科目 心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に 関する科目 (中心となる領域：知)		
授業のテーマ及び到達目標 授業のテーマ 障害のある児童生徒の指導の中心的な課題となる、読み・書き・計算のアカデミックスキルの指導法について理解する。 到達目標 1 読み・書き・計算の指導法の基礎について理解を深める。 2 国語「読むこと」の指導法について理解を深める。 3 国語「書くこと」の指導法について知識を深める。 4 算数の指導法について理解を深める。			
授業の概要 特別支援学校学習指導要領各教科(国語・算数)の内容に沿いながら、特に知的障害のある児童生徒の指導内容である読むことの指導の実際、書くことの指導法の実際、算数の指導法の実際について理解を深め、実践力を高めることができるようにする。			
授業計画 第1回：オリエンテーション 第2回：指導法の基礎1：応用行動分析に基づいた指導法 第3回：指導法の基礎2：言語・コミュニケーションの指導法 第4回：国語「読むこと」の指導法1：文字(仮名)の指導法 第5回：国語「読むこと」の指導法2：文字(漢字)の指導法 第6回：国語「読むこと」の指導法3：文・文章の指導法 第7回：国語「書くこと」の指導法1：文字(仮名)の指導法 第8回：国語「書くこと」の指導法2：文字(漢字)の指導法 第9回：国語「書くこと」の指導法3：文・文章の指導法 第10回：算数の指導法1：「数量の基礎」の指導法 第11回：算数の指導法2：「数と計算」の指導法 第12回：算数の指導法3：「図形」の指導法 第13回：算数の指導法4：「測定」および「変化と関係」の指導法 第14回：算数の指導法5：「データの活用」の指導法 第15回：まとめ			
定期試験 なし			
テキスト 必要に応じて講義・演習の中で資料を配布する。			
参考書・参考資料等 参考文献については授業中に適宜紹介する。			
学生に対する評価 成績評価は、到達目標と判断基準にもとづいて評価する。			

授業科目名： 交流及び共同学習とセ ンターの機能の実際	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 後藤 宏 樋口 陽子 担当形態：複数
科 目	特別支援教育に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	免許状に定められることとなる特別支援教育領域以外の領域に関 する科目 心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関す る科目 (中心となる領域：知的、含む領域：発達)		
授業のテーマ及び到達目標 ○交流及び共同学習の意義・目的、指導計画作成に当たってのポイントについて理解する。 1) 学習指導要領における交流及び共同学習の位置付けの変遷及び特別支援教育における交 流及び共同学習の在り方に関する内容を把握し、説明することができる。 2) 特別支援学校、幼稚園、小学校、中学校、高等学校等の交流及び共同学習の展開に必要 な学校経営の視点や取組について、他者と意見を出し合い、議論することができる。 3) 特別支援学校と小中学校等との学校間交流・居住地校交流の進め方を説明することができ、 事例に基づき作成した指導計画について、他者と意見を出し合い、議論することができる。 ○特別支援教育のセンターとしての助言又は援助の役割を果たす必要性について理解する。 1) 観察や検査を通して、学習障害、注意欠陥多動性障害、自閉症等の状態、感覚や認知及 び行動の特性を把握し、説明することができる。 2) 学習障害、注意欠陥多動性障害、自閉症等の状態や特性および心身の発達段階等を踏ま え「困難さ」に対し通常の学級でできる「個に応じた手立て」について、他者と意見 を出し合い、議論することができる。 3) 学習障害、注意欠陥多動性障害、自閉症等の状態や特性および心身の発達段階等を踏ま え、個に応じた指導の充実を図るため、ICTや適切な教材・教具の活用及び学習環境の整 備の例について、説明することができる。			
授業の概要 特別支援教育における交流及び共同学習の意義・目的、指導計画作成上のポイントを理解し、特別支 援学校と小中学校等との学校間交流及び居住地校交流の推進に必要な手順や留意事項を学び、事例に基 づく活動内容や方法を検討する。 特別支援学校の特別支援教育コーディネーターの役割を理解し、地域の状況やニーズを踏ま え、積極的にセンター的機能を果たすことができるよう、日常的な状況把握や求められる支援 に必要な知識や方法を学ぶ。			
授業計画 第1回：オリエンテーション（授業の概要・計画等） 第2回：特別支援教育における交流及び共同学習（位置付けの変遷と意義・目的・展開について） 第3回：特別支援学校における交流及び共同学習の展開と取組の実際 第4回：幼稚園、小学校、中学校、高等学校等における交流及び共同学習の展開と取組の実際 第5回：特別支援学校の児童生徒と小中学校の児童生徒との学校間交流の展開と取組の実際 第6回：特別支援学校の児童生徒と小中学校の児童生徒との居住地校交流の展開と取組の実際 第7回：模擬事例検討（居住地校交流を希望する特別支援学校生徒のアセスメントを中心に） 第8回：模擬事例検討（居住地校交流実施に当たっての指導計画の作成と留意事項を中心に） 第9回：特別支援学校のセンター的機能の根拠と概要、動向について 第10回：幼稚園や保育所等に対するセンター的機能の取組の実際 第11回：小学校に対するセンター的機能の取組の実際 第12回：中学校、高等学校に対するセンター的機能の取組の実際 第13回：ロールプレイ演習（幼児の事例をもとに情報収集面接、行動観察の基本を理解する） 第14回：事例検討（センター的機能を活用した小学校での実態把握と支援の実際） 第15回：事例検討（センター的機能を活用した中学校での実態把握と支援の実際）			
定期試験：まとめと総括的評価試験			

テキスト

- 受講生のニーズに合わせて適宜、必要な資料を配布する。
- 居住地校交流実施の手引き【改訂版】～共に学び 互いに認め合える社会を目指して～（平成28年3月 福岡県教育委員会）
- 「交流及び共同学習ガイド」（平成31年3月 文部科学省）
- 特別支援教育の展開2巻 交流及び共同学習への取組（2007年 大南英明著，明治図書）
- 幼稚園・小中高等学校における特別支援教育の進め方③ 交流及び共同学習を進めるために（2016年 全国特別支援教育推進連盟編，ジ・アース教育新社）
- 「障害のある子供の教育支援の手引～子供たち一人一人の教育的ニーズを踏まえた学びの充実に向け～」（令和3年6月文部科学省）
- 特別支援教育における交流及び共同学習の推進～学校経営の視点から～（2023年 文部科学省初等中等教育局特別支援教育課（著），全国特別支援教育推進連盟（編），ジ・アース教育新社）
- 生徒指導提要（令和4年12月文部科学省）

参考書・参考資料等

- 特別支援学校のセンター的機能（2012年 柘植雅義、田中裕一、石橋由紀子、宮崎英憲著）
- 子どもの特性と対応がわかる「特別支援教育」の基本とコツがわかる本（2022年河村暁著）
- 発達障害の子を育てる家族への支援（2007年 柘植雅義、井上雅彦編著）

学生に対する評価

授業時間外のレポート提出（20％）、授業時間中の演習（20％）、総括的評価試験（まとめの課題）の成績（60％）とする。

授業科目名： 障害のある児童生徒の キャリア教育	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：樋口陽子 担当形態：単独
科 目	特別支援教育に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	免許状に定められることとなる特別支援教育領域以外の領域に関する科目 心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目 (中心となる領域：知、含む領域：視・聴・肢・病・重複・発達)		
授業のテーマ 障害のある児童生徒の特性や能力に応じ一人一人のキャリア発達を支援し、自ら主体的に考えキャリアを形成していく意欲や能力、態度を育てるキャリア教育について理解する。			
到達目標 1) 障害のある児童生徒のキャリア教育の意義とキャリア発達について、説明することができる。 2) 障害のある児童生徒の障害の状態や特性及び心身の発達段階に応じたキャリア教育の取り組みについて文献等を調べ、他者と意見を出し合い、議論することができる。 3) 「単元における観点位置付けシート」「授業における観点位置付け・授業改善シート」「本人の願いを支えるシート」等を活用して、単元計画や授業計画、学習指導案を作成することができる。			
授業の概要 障害種の異なる特別支援学校のキャリア教育の取り組みを理解し、児童生徒の障害の状態や特性及び心身の発達段階を踏まえ、小・中・高等部と連続性や一貫性のあるキャリア教育の実践ができるよう、キャリア発達状況の把握や教育課程との関連、単元構成や授業計画、評価等に必要な知識や方法を学ぶ。			
授業計画 第1回：キャリア教育の必要性と意義、キャリア発達について 第2回：特別支援教育におけるキャリア教育の意義と「キャリアプランニング・マトリックス」 第3回：肢体不自由特別支援学校におけるキャリア教育（特別支援学校卒業生とのWeb会議） 第4回：知的障害特別支援学校におけるキャリア教育の実際 第5回：知的障害特別支援学校におけるキャリア教育（元高等学園進路指導主事を招聘） 第6回：視覚障害や聴覚障害、病弱等の特別支援学校におけるキャリア教育（学生による研究発表） 第7回：視覚障害や聴覚障害、病弱等の特別支援学校におけるキャリア教育（学生による研究発表） 第8回：視覚障害や聴覚障害、病弱等の特別支援学校におけるキャリア教育（進路指導主事を招聘）			

第9回：重度・重複障害のある児童生徒へのキャリア教育（文献研究）

第10回：発達障害のある児童生徒のキャリア教育（就労者とのWeb会議）

第11回：「単元における観点位置付けシート」の作成・活用について

第12回：「授業における観点位置付け・授業改善シート」の作成・活用について

第13回：「本人の願いを支えるシート」の作成・活用について

第14回：受講生によるキャリア教育の実践計画作成・発表

第15回：受講生によるキャリア教育の模擬授業と協議会

定期試験：まとめと総括的評価試験

テキスト

○適宜、必要な資料を配布する。

○学びをつなぐ！「キャリアパスポート」（2023年 文部科学省 国立教育政策研究所 生徒指導・進路指導研究センター編）

○特別支援教育におけるキャリア教育の意義と知的障害のある児童生徒の「キャリアプランニング・マトリックス（試案）」作成の経緯（2011年 木村宣孝、菊地一文、国立特別支援教育総合研究所研究紀要 第38巻）

参考書・参考資料等

○知的障害教育における「学びをつなぐ」キャリアデザイン（2021年 監修：菊地 一文 ジアース教育新社）

○重度・重複障害のある児童生徒へのキャリア教育の動向（2020年 森山貴史、佐々木全、名古屋恒彦 岩手大学教育学部附属教育実践総合センター研究紀要 第19号）

○自分らしい生き方を目指して～都立特別支援学校におけるキャリアパスポートの活用とキャリア発達支援（2021年 東京都教育委員会）

学生に対する評価

授業時間外のレポート提出（20％）、授業時間中の演習（20％）、総括的評価試験（まとめの課題）の成績（60％）とする。

授業科目名： 課題演習Ⅲ-1	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名： 中山 健、牛島 玲、 相澤 宏充、一木 薫、 大平 壇、見上 昌睦、 中村 貴志、河村 暁、 有元 康一、韓 星民、 深澤 美華恵、青木 康彦
			担当形態： 複数
科 目	特別支援教育に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標 特別支援教育の実践を担うリーダーとして、組織的な活動や教育実践、学校運営を推進する役割を担うこと。			
授業の概要 ＜目標＞ 各プログラムに関わる課題にふさわしい研究方法(課題解決策)を見出し、課題を具体的に達成するための計画を立てることができる。 ＜概要＞ 複数の指導教員によるゼミ形式の授業(個別指導とグループ・ディスカッション)で、教職キャリア発達に向けての継続的なメンタリング&コーチングおよび先行研究や先行事例の分析をもとに、各プログラムに関する課題解決のための新たな教育実践プランを具体化し試行する。			
授業計画 第1回 オリエンテーション 第2回 特別支援教育に関する課題研究や先行研究(文献・実践)の分析 1 第3回 特別支援教育に関する課題研究や先行研究(文献・実践)の分析 2 第4回 特別支援教育に関する課題研究や先行研究(文献・実践)の分析 3 第5回 特別支援教育に関する課題研究や先行研究(文献・実践)の分析 4 第6回 特別支援教育に関する課題研究や先行研究(文献・実践)の分析 5 第7回 特別支援教育に関する教育実践の研究計画の立案 1 第8回 特別支援教育に関する教育実践の研究計画の立案 2 第9回 中間発表 第10回 研究計画の具体的設定1 研究計画の具体的設定の提案 第11回 研究計画の具体的設定2 研究計画の具体的設定について審議 第12回 研究計画の具体的設定3 研究計画の具体的設定について検討 第13回 研究計画の具体的設定4 研究計画の具体的設定を再提案 第14回 研究計画の具体的設定5 研究計画の具体的設定の総括 第15回 まとめの発表			
定期試験 なし			
テキスト 受講者のニーズに応じて授業の中で適宜資料を配付			
参考書・参考資料等 受講者のニーズに応じて授業の中で適宜資料を配付			
学生に対する評価 成績評価は、到達目標と判断基準にもとづいて評価する。グループ活動と論議における活躍状況 50%、レポートによる評価 50%とする。			

授業科目名： 課題演習Ⅲ-2	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名： 中山 健、牛島 玲、 相澤 宏充、一木 薫、 大平 壇、見上 昌睦、 中村 貴志、河村 暁、 有元 康一、韓 星民、 深澤 美華恵、青木 康彦
			担当形態： 複数
科 目		特別支援教育に関する科目	
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標 特別支援教育の実践を担うリーダーとして、組織的な活動や教育実践、学校運営を推進する役割を担うこと。			
授業の概要 〈目標〉各プログラムに関わる課題にふさわしい研究方法（課題解決策）を見出し、課題を具体的に達成するための計画を立てることができる。 〈概要〉複数の指導教員によるゼミ形式の授業（個別指導とグループ・ディスカッション）で、教職キャリア発達に向けての継続的なメンタリング&コーチングおよび先行研究や先行事例の分析をもとに、各プログラムに関する課題解決のための新たな教育実践プランを具体化し試行する。			
授業計画 第1回 オリエンテーション 第2回 研究計画に基づいた課題解決策の提案1 課題解決策の提案に対する審議 第3回 研究計画に基づいた課題解決策の提案2 調査研究・先進事例等の分析・比較検討 第4回 研究計画に基づいた課題解決策の提案3 試行データの分析。 第5回 研究計画に基づいた課題解決策の提案4 モデル実践提案のプレゼンテーション作成 第6回 研究計画に基づいた課題解決策の提案5 モデル実践提案のプレゼンテーションを審議 第7回 研究計画に基づいた課題解決策の提案6 モデル実践を対象校に提案 第8回 中間発表 課題解決策の具体性の向上 第9回 モデル実践の実施1 モデル実践の実施・データ分析に基いた提案の再検討 第10回 モデル実践の実施2 モデル実践実施の進捗に対する審議 第11回 モデル実践の実施3 モデル実践実施の進捗に対する提案 第12回 モデル実践の実施4 モデル実践実施の進捗に対する再審議 第13回 モデル実践の実施5 中間報告書のプレゼンテーション作成 第14回 モデル実践の実施6 プレゼンテーションを発展させるため検討 第15回 中間報告会			
定期試験 なし			
テキスト 受講者のニーズに応じて授業の中で適宜資料を配付			
参考書・参考資料等 受講者のニーズに応じて授業の中で適宜資料を配付			
学生に対する評価 成績評価は、到達目標と判断基準にもとづいて評価する。グループ活動と論議における活躍状況 50%、レポートによる評価 50%とする。			

授業科目名： 課題演習Ⅲ-3	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名： 中山 健、牛島 玲、 相澤 宏充、一木 薫、 大平 壇、見上 昌睦、 中村 貴志、河村 暁、 有元 康一、韓 星民、 深澤 美華恵、青木 康彦 担当形態： 複数
科 目	特別支援教育に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標 特別支援教育の実践を担うリーダーとして、組織的な活動や教育実践、学校運営を推進する役割を担うこと。			
授業の概要 ＜目標＞ 各プログラムに関わる課題にふさわしい研究方法(課題解決策)を見出し、課題を具体的に達成するための計画を立てることができる。 ＜概要＞ 複数の指導教員によるゼミ形式の授業(個別指導とグループ・ディスカッション)で、教職キャリア発達に向けての継続的なメンタリング&コーチングおよび先行研究や先行事例の分析をもとに、各プログラムに関する課題解決のための新たな教育実践プランを具体化し試行する。			
授業計画 第1回 オリエンテーション 第2回 研究計画に基づいた課題解決(年間計画)の実践1 年間計画(提案)の提案 第3回 研究計画に基づいた課題解決(年間計画)の実践2 年間計画(提案)の審議 第4回 モデル実践の検討1 モデル実践推進のための組織再編の審議 第5回 モデル実践の検討2 モデル実践推進のプロセスの検討 第6回 モデル実践の検討3 モデル実践推進のための方策の審議 第7回 モデル実践の検討4 事業推進に向けたリーダーシップの理解 第8回 中間発表 第9回 課題解決に向けた協働体制の構築1 モデル実践の成果(中間)の分析 第10回 課題解決に向けた協働体制の構築2 モデル実践に対する評価の審議 第11回 課題解決に向けた協働体制の構築3 モデル実践の成果の報告 第12回 課題解決に向けた協働体制の構築4 モデル実践に対する総括 第13回 課題解決に向けた協働体制の構築5 事業の成果を踏えた再提案内容の審議 第14回 課題解決に向けた協働体制の構築6 中間報告書の審議 第15回 まとめ			
定期試験 なし			
テキスト 受講者のニーズに応じて授業の中で適宜資料を配付			
参考書・参考資料等 受講者のニーズに応じて授業の中で適宜資料を配付			
学生に対する評価 成績評価は、到達目標と判断基準にもとづいて評価する。グループ活動と論議における活躍状況 50%、レポートによる評価 50%とする。			

授業科目名： 課題演習Ⅲ-4	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名： 中山 健、牛島 玲、 相澤 宏充、一木 薫、 大平 壇、見上 昌睦、 中村 貴志、河村 暁、 有元 康一、韓 星民、 深澤 美華恵、青木 康彦
			担当形態： 複数
科 目	特別支援教育に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標 特別支援教育の実践を担うリーダーとして、組織的な活動や教育実践、学校運営を推進する役割を担うこと。			
授業の概要 〈目標〉各プログラムに関わる課題にふさわしい研究方法（課題解決策）を見出し、課題を具体的に達成するための計画を立てることができる。 〈概要〉複数の指導教員によるゼミ形式の授業（個別指導とグループ・ディスカッション）で、教職キャリア発達に向けての継続的なメンタリング&コーチングおよび先行研究や先行事例の分析をもとに、各プログラムに関する課題解決のための新たな教育実践プランを具体化し試行する。			
授業計画 第1回 オリエンテーション 第2回 研究成果の分析1 研究成果の分析の審議 第3回 研究成果の分析2 研究成果のプレゼンテーション作成 第4回 研究成果の分析3 研究成果報告書の審議 第5回 研究成果の分析4 研究成果報告書の作成 第6回 研究成果の分析5 研究成果の分析 第7回 研究成果の分析6 研究成果の検証 第8回 中間発表 第9回 最終報告会プレゼンテーションの作成1 研究成果報告書の審議 第10回 最終報告会プレゼンテーションの作成2 研究成果報告書の作成 第11回 最終報告会プレゼンテーションの作成3 研究成果プレゼンテーションの提案 第12回 最終報告会プレゼンテーションの作成4 研究成果プレゼンテーションの審議 第13回 最終報告会プレゼンテーションの作成5 報告書・プレゼンテーションの展開 第14回 最終報告会プレゼンテーションの作成6 報告書・プレゼンテーションの総括 第15回 最終報告会			
定期試験 なし			
テキスト 受講者のニーズに応じて授業の中で適宜資料を配付			
参考書・参考資料等 受講者のニーズに応じて授業の中で適宜資料を配付			
学生に対する評価 成績評価は、到達目標と判断基準にもとづいて評価する。グループ活動と論議における活躍状況 50%、レポートによる評価 50%とする。			

授業科目名： 特別支援教育TA実習	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 中山 健 牛島 玲 河村 暁 有元 康一 青木 康彦 担当形態： 複数
科 目	特別支援教育に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標 連携協力校の特別支援学級において、特別なニーズのある児童生徒を対象にしたTAとして参画することを通して学校での実務について理解を深めるとともに課題演習における課題の追求を行う。			
授業の概要 ＜目標＞ ○障害のある児童生徒の子ども理解や教師としての学習指導力・学級経営力についての自らの課題を明確にした上で、改善のためのアクションプランを立案・推進することができる。 ○特別支援学級担任と教育理念や教育ビジョンを共有し、有機的・効果的な協働による学習指導や学級経営を行うことができる。学習指導や学級経営に関する課題を共有して解決の方策を探るとともに、実践の成果や課題を説明することができる。 ＜概要＞ 1 実習校において毎週1日約3ヶ月間継続的にティーチングアシスタント(TA)としての協働的な教育活動支援を行う中で、特別支援教育の対象となる児童生徒のニーズの理解及び学級経営の内容やスキル等について“教室の事実”から実践的に学ぶ。さらに、ICT機器の活用など、現代に求められる教育技術の習得を図る。 2 学級担任や特別支援教育コーディネーターによる定期的なメンタリング&コーチングを受け、リフレクション(省察)を行うことで実践力を育成する。 3 「副担任(院生)」自身の課題を見つけ、その解決に向けて取り組む。 4 「副担任」としての活動具体例(次の活動具体例の中から校長が認めたものを実施)・学年研修会や教科部会(打合せ)への参加・TT及び少人数指導・自習指導・補助資料作成・印刷・学習資料配付・個人ノートなどの点検・学級通信作成補助・校務分掌補助・部活動指導の補助・清掃指導・昼食や給食の指導・学級や学校行事へのかかわり等			
授業計画 ※連携協力校 週1日×1日8時間×10週=80時間 事前指導6時間 事後指導4時間 計90時間 事前指導(6時間) 第1回 本実習の概要、目的等について理解(大学) 2時間 第2回 学校の教育計画の理解と学級経営の観察視点の確立(連携協力校) 2時間 第3回 学級経営方針や学年経営案の理解(連携協力校特別支援学級) 2時間 本実習(80時間) 第4回 児童生徒の実態把握と理解の仕方 8時間 第5回 学級の集団づくりの在り方・授業づくりに関する事前指導と指導の実践 8時間 第6回 授業づくりや集団づくりに関する評価の在り方 8時間 第7回 教科・領域等の授業参観・学習等の実態を把握、情報共有 8時間 第8回 教科・領域等の授業観察と分析による授業づくりの概要把握 8時間 第9回 児童生徒の実態把握による各自の課題研究の具体化 8時間 第10回 教科・領域等の授業実践や調査の構想提案 8時間 第11回 課題研究に応じた授業実践の検討・指導案作成 8時間 第12回 課題研究に応じた授業実践 8時間 第13回 課題研究に応じた授業実践後の知見や発展の方向性の検討・評価(成果と課題) 8時間 事後指導(4時間) 第14回 授業づくりや学級経営等に関する自己課題の整理 2時間 第15回 総括ディスカッションによる学びの振り返り 2時間			
テキスト 受講者のニーズに応じて、授業の中で適宜資料を配布する。			
参考書・参考資料等 受講生の状況にあわせて、参考図書あるいは参考資料を紹介する。			

学生に対する評価

連携協力校の管理職及び教員に，実習生の活動をもとに所見票を書いてもらい，その所見票や実習での活動，実習態度，実習日誌，レポート等をもとに大学院の実習責任者と実習指導者が協議して最終評価を行う。

授業科目名： 特別支援学校TA実習 I	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 中山 健、河村 暁 牛島 玲、有元 康一、 青木 康彦
			担当形態： 複数
科 目	特別支援教育に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標 授業のテーマ ・ 連携協力校の特別支援学校においてTAとして活動しながら在籍児童生徒の実態把握を行い個別の指導計画を立案する。T1として学習指導ができるように対象児童生徒の学級での授業設計、教材開発、授業方法を工夫して授業実践を行う。 ・ 特別支援学校の学校諸行事の運営等の在り方の体験を通して学ぶ。 到達目標 ・ 連携協力校における実習の導入として位置づけ、実習の前半では特別支援学校教員によるモデル実践から教育実践における研究課題を見いだすことができる。 ・ 実習の後半ではT1として単発の授業実践を行うことを通して特別支援学校での実務について理解を深めるとともに課題演習における課題の追究を行うことができる。			
授業の概要 ・ 連携協力校での実習の導入として位置づけ、教育実践における研究課題を発見することに焦点を当てて観察や調査、授業実践を行う。 ・ 連携協力校において前半は授業分析、関与観察、リフレクション等の基礎に関わる能力の形成に焦点をあて、後半は前半に形成した能力の強化に焦点をあてるとともに、特別支援学校TA実習Ⅱ以降の基盤となる人間関係形成に取り組む。			
授業計画 ・ 本実習（定期訪問実習） 1日8時間×1日間×10週＝80時間 ・ 事前指導5時間、事後指導5時間（合計90時間） <事前指導：5時間> 第1回：実習の手引書をもとに、本実習の概要・目的等について理解する。（2時間） 第2回：実習校に事前訪問を行い、概要・実習の参画の仕方等を理解し、事前レポートを作成する。（3時間） <特別支援学校実習：80時間> 第1回：実習校オリエンテーション。配属学級担任及び児童生徒と対面する。			

第2回：授業を参観、授業記録を作成、分析する

第3回：授業を参観し分析するとともに学校・児童生徒の実態把握と課題を整理する。

第4回：授業記録を作成しつつ、授業にTAとして参画する。

第5回：学校経営方針や教育計画を理解し児童生徒の日常生活の指導を行う。

第6回：児童生徒の実態把握を行い、個別の指導計画を作成する。

第7回：提供された資料や作成した個別の指導計画に基づき査定授業に向けた指導案や教材を作成する。

第8回：授業実践場面を決定し、授業設計、教材開発、授業方法の工夫、評価方法などを考え、指導案及び教材を完成させる。事前授業を行う。

第9回：作成した指導案をもとにT1として査定授業を行う。

第10回：授業の振り返りを行って、実習全体のまとめを行う。

＜事後指導：5時間＞

第1回：事後レポートを作成する。（2時間）

第2回：報告会の準備をする。（2時間）

第3回：報告会を行う。（1時間）

定期試験なし

テキスト

- ・ 受講者のニーズに応じて、授業の中で適宜資料を配布する。

参考書・参考資料等

- ・ 受講生の状況にあわせて、参考図書あるいは参考資料を紹介する。

学生に対する評価

- ・ 特別支援学校実習校の管理職及び教員に、実習生の活動をもとに所見票を書いてもらい、その所見票や実習での活動、実習態度、実習日誌、レポート等をもとに大学院の実習責任者と実習指導者が協議して最終評価を行う。

授業科目名： 自立活動実践実習 A	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 中山 健、河村 暁 牛島 玲、有元 康一 青木 康彦
			担当形態： 複数
科 目	特別支援教育に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標 授業のテーマ ・ 配属学級等で授業を参観し、自立活動の時間の指導の在り方について学習する。 ・ 配属学級で T 2 として活動し、知的障害特別支援学校における指導の特徴を理解し、授業支援及び学級経営支援を行う。 ・ 対象児童・生徒 1 名（グループ）の実態把握及び中心課題の設定を行い、自立活動の時間の指導案作成及び授業を行う。 ・ 当該特別支援学校教員の師範授業及び自立活動実践実習 B 担当の現職教員実習生の授業を参観し、自立活動の指導の実態を分析しレポートにまとめる。 ・ 当該学校の下承を得た上で、学校で実施される研究会及び協議会等に参加する。 ・ 当該学校における学校諸行事の運営等の在り方について体験を通し学ぶ。 到達目標 ・ 知的障害特別支援学校における自立活動の時間における指導に参画することを通して、特別支援学校における教育課程の中核である自立活動の時間における実務について理解を深める。			
授業の概要 ・ 連携協力校（特別支援学校）での教育活動「自立活動の時間における指導」にティーチング・アシスタント（T A）として参画し、協働的な教育活動支援を行う中で、子どものニーズの理解や自立活動の指導に関する授業技術等について、“教室の事実”から実践的に学ぶ。			
授業計画 ・ 本実習 1 日 8 時間× 5 日間× 2 週＝80 時間 ・ 事前指導 5 時間、事後指導 5 時間 合計 90 時間 <事前指導： 5 時間> 第 1 回：実習の手引書をもとに、本実習の概要・目的等について理解する。（2 時間） 第 2 回：実習校に事前訪問を行い、概要・実習の参画の仕方等を理解する。（3 時間）			

＜特別支援学校実習：80時間＞

第1週

第3回：実習校オリエンテーション，配属学級担任及び児童生徒との対面

第4回：配属学級観察，T2指導開始

第5回：対象児童生徒決定，観察及び個別指導開始

第6回：対象児童生徒の実態把握，情報収集，中心課題検討

第7回：自立活動の時間指導案作成

第2週

第8回：自立活動の時間の指導計画にもとづく指導

第9回：自立活動の時間の指導計画にもとづく指導

第10回：自立活動の時間指導案にもとづく指導

第11回：査定授業（自立活動の時間指導案にもとづく指導）及び協議会

第12回：実習の振り返り

＜事後指導：5時間＞

第13回：事後レポートの作成（2時間）

第14回：報告会準備（2時間）

第15回：大学院における報告会（1時間）

定期試験なし

テキスト

- ・ 受講者のニーズに応じて，授業の中で適宜資料を配布する。

参考書・参考資料等

- ・ 受講生の状況にあわせて，参考図書あるいは参考資料を紹介する。

学生に対する評価

- ・ 特別支援学校実習校の管理職及び教員に，実習生の活動をもとに所見票を書いてもらい，その所見票や実習での活動，実習態度，実習日誌，レポート等をもとに大学院の実習責任者と実習指導者が協議して最終評価を行う。

授業科目名： 特別支援学校TA実習 Ⅱ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 中山 健、河村 暁 牛島 玲、有元 康一、 青木 康彦
			担当形態： 複数
科 目	特別支援教育に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標 授業のテーマ ・ 特別支援学校の授業を参観し特別支援学校での指導の在り方について学習する。 ・ 配属学級で TA として活動し、特別支援学校における指導の特徴を理解し、授業支援及び学級経営支援を行う。 ・ 実態把握に基づいて学級担任としての役割を想定した授業実践や学級運営を行い、改善や発展を検討する。 ・ 可能な場合、学校で実施される研究会及び協議会等に参加する。 到達目標 ・ 特別支援学校における学校経営方針、学級経営方針、教育計画を理解できる。 ・ 学級担任としての役割を想定した教育実践を行い、体験を通して学ぶ。 ・ 児童生徒の実態に基づいて個別の指導計画を作成し授業実践や学級運営を行うことができる。			
授業の概要 ・ 特別支援学校における学校経営方針や教育計画等を理解し、教育活動に参画する。 ・ 学級経営にTAとして参画し児童生徒の実態把握を行う。 ・ 特別支援学校における個別の指導計画の作成及びそれに基づく授業実践や学級運営に、TAや学級担任の役割を想定しながら取り組み学ぶ。			
授業計画 ・ 本実習（定期訪問実習） 1日8時間×10週＝80時間 ・ 事前指導5時間、事後指導5時間（合計90時間） <事前指導：5時間> 第1回：実習の手引書をもとに、本実習の概要・目的等について理解する。（2時間） 第2回：実習校に事前訪問を行い概要・実習の参画の仕方等を理解し、事前レポートを書く。（3時間） <特別支援学校実習：80時間>			

第1回：特別支援学校の学校経営方針・学級経営方針・教員としての心構えについて学ぶ。 第2回：特別支援学校の教育計画を理解し教育活動にTAとして参画する。 第3回：学校経営方針や教育計画を理解し学級担任としての教育活動を想定しながら児童生徒の日常生活の指導を行う。 第4回：学級経営方針を理解し学級担任としての教育活動を想定しながら児童生徒の日常生活の指導を行う。 第5回：学級経営にTAとして参画し学級担任としての教育活動を想定した授業実践や学級運営を構想する。 第6回：学級の集団づくりや児童生徒について実態把握を行い個別の指導計画を作成する。 第7回：提供された資料や作成した個別の指導計画に基づき査定授業に向けた指導案や教材を作成する。 第8回：授業設計、教材開発、授業方法の工夫、評価方法などを考え、指導案及び教材を完成させ、事前授業を行う。 第9回：学級担任の役割を想定しながらT1として授業実践や学級運営を行う。 第10回：授業実践や学級運営の振り返りを行って、実習全体のまとめを行う。 ＜事後指導：5時間＞ 第1回：事後レポートの作成（2時間） 第2回：報告会準備（2時間） 第3回：大学院における報告会（1時間） 定期試験なし
テキスト ・ 受講者のニーズに応じて、授業の中で適宜資料を配布する。
参考書・参考資料等 ・ 受講生の状況にあわせて、参考図書あるいは参考資料を紹介する。
学生に対する評価 ・ 特別支援学校実習校の管理職及び教員に、実習生の活動をもとに所見票を書いてもらい、その所見票や実習での活動、実習態度、実習日誌、レポート等をもとに大学院の実習責任者と実習指導者が協議して最終評価を行う。

授業科目名： 特別支援教育異校種実習	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 中山 健, 河村 暁 牛島 玲, 青木 康彦
			担当形態： 複数
科 目	特別支援教育に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標 授業のテーマ ・ 配属学級等で授業を参観し、特別支援学校の授業の在り方について学習する。 ・ 配属学級でT 2として活動し、在籍学校障害種と異なる特別支援学校の特徴を理解し、授業支援及び学級経営支援を行う。 ・ 対象児童・生徒1名の実態把握を行い、個別の指導計画（様式）を立案及び試行を行う。 ・ 当該特別支援学校教員の師範授業を参観し、障害種の特徴に応じた特別支援教育の特色を分析しレポートにまとめる。 ・ 当該学校の下承を得た上で、学校で実施される研究会及び協議会等に参加する。 ・ 当該学校における学校諸行事の運営等の在り方について体験を通し学ぶ。 到達目標 ・ 現職院生が在籍する特別支援学校とは、障害種が異なる特別支援学校の実務について理解を深め、特別支援学校の多様な教育活動の実践を学ぶ。 ・ 障害種固有の特別な教育的ニーズのある児童生徒の実態を把握し、個別の教育支援計画や指導計画を理解するとともに、TT活動等を通じて実践につなげることができる。 授業の概要 ・ 現在勤務している障害種と異なる特別支援学校で実習を行い、児童生徒の障害の状況や困難さの具体、実習校における障害種に応じた指導の実践、当該障害種に応じた学校施設・設備の状況、学校行事の実践等、教育環境の違いについて体験を通して学ぶようにする。 ・ 児童生徒観察にもとづく個別の指導計画の作成やTTによる学級担任の補助を通して、他校の教育実践を学び、在籍校における教育実践を振り返る機会とする。 授業計画 ・ 本実習 1日8時間×5日間×2週＝80時間 ・ 事前指導5時間、事後指導5時間 合計90時間 <事前指導：5時間> 第1回：実習の手引書をもとに、本実習の概要・目的等について理解する。（2時間） 第2回：実習校に事前訪問を行い、概要・実習の参画の仕方等を理解する。（3時間）			

＜特別支援学校実習：90時間＞

第3回：実習校オリエンテーション，配属学級担任及び児童生徒挨拶

第4回：配属学級観察，T2指導開始

第5回：対象児童生徒決定，観察及び個別指導開始

第6回：個別の指導計画（案）作成

- ① 対象児童生徒の実態把握，情報収集

第7回：個別の指導計画（案）作成

- ② 対象児童生徒の支援方針の検討

第8回：第1週報告（個別の指導計画案の作成）

学級担任等との協議会の実施

第9回：個別の指導計画案にもとづく指導の実施・評価

- ① 生活補助及びレポート作成

第10回：個別の指導計画案にもとづく指導の実施・評価

- ② 学習補助及びレポート作成

第11回：個別の指導計画案にもとづく指導の実施・評価

- ③ 学校行事等の補助及びレポート作成

第12回：第2週報告（個別の指導計画作成及び指導の実施）

管理職及び学級担任等との協議会の実施

＜事後指導：5時間＞

第13回：事後レポートの作成（2時間）

第14回：報告会準備（1時間）

第15回：大学院における報告会（2時間）

定期試験なし

テキスト

- ・ 受講者のニーズに応じて，授業の中で適宜資料を配布する。

参考書・参考資料等

- ・ 受講生の状況にあわせて，参考図書あるいは参考資料を紹介する。

学生に対する評価

- ・ 特別支援学校実習校の管理職及び教員に，実習生の活動をもとに所見票を書いてもらい，その所見票や実習での活動，実習態度，実習日誌，レポート等をもとに大学院の実習責任者と実習指導者が協議して最終評価を行う。

授業科目名： 特別支援教育連携資源実習	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 中山 健 牛島 玲 河村 暁 青木 康彦 担当形態： 複数
科 目	特別支援教育に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標 授業のテーマ 特別支援教育のセンター的機能を担う中核的教員となることを念頭に、特別支援学校との連携が求められる社会資源(発達障害者支援センター、医療的ケア児支援センター、社会福祉協議会、放課後等ディサービス事業所等)における実習を通して、連携する社会資源の特徴や役割、組織の活動に関する知識と障害のある児童生徒の支援方法について体験的に学ぶ。 学校外の社会資源との連携を形成・強化できる。 到達目標 ・特別支援学校が連携する教育・医療・福祉関係の社会資源の業務について体験的に学ぶ。 ・社会資源の立場から障害のある児童生徒及び保護者、関係者の支援方法について学ぶ。 ・社会資源においてサービスを受ける幼児・児童・生徒個人を支援対象として社会資源の立場から、個人の成長・発達・社会的適応を促すためのアセスメントを実施し、結果の整理や分析をする。 ・アセスメントの分析に基づいた支援計画をたて、社会資源においてサービスを提供できるレポートを作成できる。 ・支援計画に基づいたサービスを提供し、適切に自己評価できる。			
授業の概要 連携資源において提供されるサービスについて学び、社会資源の立場から障害のある幼児・児童・生徒の支援に従事することを通して、支援方法のあり方について学ぶ。社会資源の立場から個人の成長・発達・社会的適応を促すためのアセスメントを実施して支援計画を作成する。さらに計画したサービスを実施してその結果を適切に自己評価することを通して社会資源との連携方法やチーム支援のあり方について学ぶ。			
授業計画（期間中 10 回、大学でのグループスーパービジョンで実習生合同での学び合いの機会をもつ） ※週 1 日×1 日 8 時間×10 週=80 時間 事前指導 4 時間 事後指導 12 時間 計 96 時間 事前指導（各 2 時間） 第 1 回：実習の概要や目的等についてのオリエンテーション 第 2 回：連携社会資源についてのオリエンテーション 連携社会資源等 第 1 回：対象となる幼児・児童・生徒の資料収集 第 2 回：対象となる幼児・児童・生徒の支援中の様相観察 第 3 回：資料収集と様相観察の総合的な分析と支援計画の作成 第 4 回：支援計画の実施 1 第 5 回：支援計画の実施 2 第 6 回：2 回の実施結果をふまえた進捗状況の確認と支援計画の修正 第 7 回：修正した支援計画の実施 1 第 8 回：修正した支援計画の実施 2 第 9 回：修正した支援計画の実施 3 第 10 回：3 回の修正した支援計画の実施結果を踏まえた進捗状況の確認と総括 事後指導：大学（期間中 10 回（計 10 時間）の学び合いを含む） 第 1 回：実習のまとめ（2 時間） 定期試験なし テキスト 受講者のニーズに応じて、授業の中で適宜資料を配布する。			

参考書・参考資料等

受講生の状況にあわせて、参考図書あるいは参考資料を紹介する。

学生に対する評価

社会資源の施設長及び実習指導者に、実習生の活動をもとに所見票を書いてもらい、その所見票や実習での活動、実習態度、実習日誌、レポート等をもとに大学院の実習責任者と実習指導者が協議して最終評価を行う。

授業科目名： 自立活動実践実習 B	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 3 単位	担当教員名： 中山 健、河村 暁 牛島 玲、青木 康彦 担当形態：複数
科 目	特別支援教育に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標 授業のテーマ ・ 配属学級等で授業を参観し、自立活動の時間の指導の在り方について学習する。 ・ 配属学級で T 2 として活動し、知的障害特別支援学校における指導の特徴を理解し、授業支援及び学級経営支援を行う。 ・ 対象児童・生徒 1 名（グループ）の実態把握及び中心課題の設定を行い、自立活動の時間の指導案作成及び授業を行う。 ・ 当該特別支援学校教員の示範授業及び自立活動実践実習 A 担当の新人院生の授業を参観し、自立活動の指導について指導助言を行う。 ・ 当該学校の下承を得た上で、学校で実施される研究会及び協議会等に参加する。 ・ 当該学校における学校諸行事の運営等の在り方について体験を通し学ぶ。 到達目標 ・ 知的障害特別支援学校での「自立活動の時間における指導」に参画することを通して特別支援学校での実務について理解を深める。 ・ 特別支援教育高度実践力プログラムの新人院生が参画する、宗像特別支援学校での「自立活動の時間における指導」について、スーパーバイズすることを通して、教員の同僚性の高める方途やミドルリーダーに必要な知識技能を学ぶ。			
授業の概要 ・ 連携協力校（特別支援学校）での教育活動「自立活動の時間における指導」に参画し、協働的な教育活動支援を行う中で、子どものニーズの理解や自立活動の指導に関する授業技術等について、“教室の事実”から実践的に学ぶ。 ・ 自立活動担当教員とともに特別支援教育高度実践力プログラムの新人院生を対象に定期的なメンタリング&コーチングを行うことにより、同僚性を高めたり、ミドルリーダーとして役割を発揮したりするために必要な知識技能を実践的に学ぶ。			
授業計画 ・ 本実習①（定期訪問実習） 1 日 8 時間× 1 日間× 10 週＝80 時間 ・ 本実習②（集中訪問実習） 1 日 8 時間× 5 日間× 1 週＝40 時間 ・ 事前指導 5 時間、事後指導 5 時間 合計 130 時間			

＜事前指導：5時間＞

第1回：実習の手引書をもとに、本実習の概要・目的等について理解する。（2時間）

第2回：実習校に事前訪問を行い、概要・実習の参画の仕方等を理解する。（3時間）

＜特別支援学校実習：120時間＞

定期訪問実習：80時間

第1回：実習校オリエンテーション、配属学級担任及び児童生徒との対面

第2回：配属学級観察、T2指導開始

第3回：対象児童生徒決定、観察及び個別指導開始

第4回：対象児童生徒の実態把握、情報収集、中心課題検討

第5回：自立活動の時間指導案作成

第6回：自立活動の時間の指導計画にもとづく指導

第9回：自立活動の時間の指導計画にもとづく指導

第7回：自立活動の時間指導案にもとづく指導

第8回：自立活動の時間指導案にもとづく指導

第9回：査定授業（自立活動の時間指導案にもとづく指導）及び協議会

第10回：前半実習の振り返り

集中訪問実習：40時間

第11回：自立活動の時間指導案作成補助

第12回：自立活動の時間指導案作成補助及び教材・教具作成指導

第13回：新人院生授業づくり指導及び支援

第14回：新人院生査定授業及び協議会における指導助言

第15回：後半実習の振り返り

＜事後指導：5時間＞

第1回：事後レポートの作成（2時間）

第2回：報告会準備（2時間）

第3回：大学院における報告会（1時間）

定期試験なし

テキスト

- ・ 受講者のニーズに応じて、授業の中で適宜資料を配布する。

参考書・参考資料等

- ・ 受講生の状況にあわせて、参考図書あるいは参考資料を紹介する。

学生に対する評価

- ・ 特別支援学校実習校の管理職及び教員に、実習生の活動をもとに所見票を書いてもらい、その所見票や実習での活動、実習態度、実習日誌、レポート等をもとに大学院の実習責任者と実習指導者が協議して最終評価を行う。

授業科目名： 自立活動マネジメント実習	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 3単位	担当教員名： 中山 健、牛島 玲、 河村 暁、青木 康彦
			担当形態： 複数
科 目	特別支援教育に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ ・在籍校で自立活動の現状を調査し、結果の整理や分析を行う。 ・在籍校で教育課程上の自立活動の位置づけ、各教科を合わせた指導について理解を促進する。 ・在籍校で自立活動を活性化する案を作成・提案し、取り組みを支援する。 到達目標 ・在籍校で自立活動の現状を分析できる。 ・分析に基づいて支援計画をたて自立活動に活用できるレポートを作成できる。 ・在籍校等の自立活動を活性化するための評価と提案ができる。 ・実施・提案した分析、計画、支援について適切に自己評価できる。 授業の概要 在籍校における自立活動の現状を分析し支援計画をたてて自立活動に活用できるレポートを作成する。また自立活動を活性化する案を作成・提案し、取り組みを支援するとともに自立活動に関する若年層教員等の支援力向上に資する取り組みを行う。在籍校での自立活動を活性化する研修会を開催し人材育成に貢献する力量を高める。 授業計画（事前事後指導は別途授業等で実施） ※週 1 日×1 日 8 時間×15 回=120 時間 事前指導 4 時間 事後指導 11 時間 合計 135 時間 事前指導：大学（各 2 時間） 第 1 回 大学において本実習の概要、目的等について理解する。 第 2 回 在籍校における実習の参画の仕方等を理解する。 実習：在籍校（各 8 時間） 第 1 回 自立活動の時間の指導について調査・分析を行う。 第 2 回 自立活動の時間以外の指導について調査・分析を行う。 第 3 回 分析結果をもとに自立活動の運用を改善する計画をたてる。 第 4 回 校内研修会①で子どもの資料整理手法を提案し、実施に向けての準備を行う。			

第5回	提案した資料整理法を学校で実施できるように支援する。
第6回	提案した資料整理法の実施後の成果と課題をまとめる。
第7回	自立活動と学習内容を関連付けるための実態を確認するための実態を確認する。
第8回	自立活動の指導の効果を高めるための実態を確認する。
第9回	校内研修会②において在籍校等の具体的な取り組みとして自立活動の校内体制の充実、カリキュラム整備、校内研修推進などを提案する。
第10回	校内研修会②の提案内容の実践(1)を行う。
第11回	校内研修会②の提案内容の実践(2)を行う。
第12回	提案後の状況について関係者から資料を収集する。
第13回	提案した課題に関する資料を整理、分析する。
第14回	成果と課題をケース・レポートにまとめる。
第15回	レポートに基づき実習全体の成果と課題の報告・検討を行う。
事後指導：大学	
第1回～第10回	期間中の大学における学び合い(各1時間 計10時間)
第11回	実習のまとめ(1時間)
定期試験なし	
テキスト	
受講者のニーズに応じて授業の中で適宜資料を配付する。	
参考書・参考資料等	
受講生の状況にあわせて、参考図書あるいは参考資料を紹介する。	
学生に対する評価	
在籍校の管理職及び教員に実習生の活動をもとに所見票を書いてもらい、その所見票や実習での活動、実習態度、実習日誌、レポート等をもとに大学院の実習責任者と実習指導者が協議して、その所見票や実習での活動、実習態度、実習日誌、レポート等をもとに担当指導教員が最終評価を行う。	

授業科目名： 特別支援教育実践実習 B	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 中山 健, 河村 暁 牛島 玲, 青木 康彦
			担当形態： 複数
科 目	特別支援教育に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標 授業のテーマ ・ 附属小・中学校特別支援学級で、T 2として活動しながら在籍児童生徒1名の実態把握を行い個別の指導計画を立案する。またT 1として学習指導ができるように、対象児童生徒の学級での授業設計、教材開発、授業方法を工夫して授業実践（1回以上）を行う。 ・ 第1週目までに、授業研究会等セミナー参加と夏休み期間中の事前打ち合わせを含め、附属小・中学校教員の授業参観と対象児童・生徒1名の実態把握を行い、個別の指導計画作成の試行と指導案の準備を行う。第2週目に、作成した個別の指導計画をもとに指導案を完成させ、T 1として授業を1回以上行う。 ・ 附属学校教員の授業を参観し特別支援教育の特色を分析しレポートにまとめる。また、実態把握と個別の指導計画を作成する。 ・ 可能な場合、附属学校の授業研究後の協議会に参加する。 ・ 学校諸行事の運営等の在り方の体験を通して学ぶ。 到達目標 ・ 個に応じた教育実践を、特別支援学級のT T活動を通じて理解する。 ・ 特別な教育的ニーズのある児童生徒の実態を把握し個別の教育支援計画や指導計画を理解し実践につなげることができる。 ・ 個別の目標・内容・方法を明確にした指導案を作成し、教科・領域等の学習指導及び評価を行う。 ・ 個に応じた教育実践を、特別支援学級のT T活動を通じて理解しようとしている。 ・ 特別な教育的ニーズのある児童生徒の実態を把握し、個別の教育支援計画や指導計画を理解しようとしている。 授業の概要 ・ 特別支援教育を理解する上で欠かせない、特別支援学級における個別の指導計画の作成、及び作成した個別の指導計画に基づいた個に応じた授業実践について、観察及びT Tとしての学級担任の補助を通じて学ぶ。とりわけ知的障害児および発達障害児の特性理解や教育的ニーズを、アセスメントを通じ理解したうえで教育実践を行い、これまでの授業実践			

を振り返る機会とする。
授業計画 ・ 本実習 8日×1日8時間＝64時間 ・ 事前指導10時間，事後指導16時間 計90時間 ＜事前指導：10時間＞ 第1回：本実習の目的・内容等について理解する。（3時間） 第2回：実習の手引きをもとに，本実習の概要，実習の参画の仕方，特別支援教育実践実習の評価等を理解する。（3時間） 第3回：事前レポート等を作成する。（4時間） ＜本実習：64時間＞ 第4回：附属小・中学校で実施される授業研究会に参加し，児童生徒を観察するとともに特別支援学級の授業づくりを学ぶ。 第5回：附属小・中学校よりオリエンテーションを受ける。また，特別支援学級と対象児童生徒の紹介を受ける。（対面式） ※ 第5回と第6回の間に，大学院にて指導案作成及び意見交換会を実施する。（第12回事後指導4時間） 第6回：実際に生活指導や学習指導でT2として附属学校教員の学級づくりや指導方法について学ぶ。 第7回：児童生徒の実態把握（学習面・行動面・社会性・コミュニケーションなどの観察）を行い，個別の指導計画を作成する。 第8回：作成した個別の指導計画及び資料提供された心理検査等の資料などをもとに査定授業に向けた指導案や教材を作成する。 第9回：授業実践場面（1時間以上）を決定し，授業設計，教材開発，授業方法の工夫，評価方法などを考え，指導案及び教材を完成させる。事前授業を行う。 第10回：作成した指導案をもとに，T1として，査定授業を行う 第11回：授業の振り返りを行い，実習全体を通してのまとめを行う。 ＜事後指導：16時間＞ 第12回：本実習後半に向けて指導案等作成及び意見交換会を行う。（4時間） 第13回：事後レポートを作成し，実習のまとめを行う。（4時間） 第14回：報告会の準備を行う。（4時間） 第15回：全体報告会を実施する。（4時間） 定期試験なし
テキスト

- ・ 受講者のニーズに応じて授業の中で適宜資料を配付する。

参考書・参考資料等

- ・ 受講生の状況にあわせて、参考図書あるいは参考資料を紹介する。

学生に対する評価

- ・ 附属学校管理職及び教員に実習生の活動をもとに所見票を書いてもらい、その所見票や実習での活動、実習態度、実習日誌、レポート等をもとに大学院の実習責任者と実習指導者が協議して最終評価を行う。

授業科目名： 学校カウンセリング 実習 B	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 3 単位	担当教員名： 中山 健、河村 暁 牛島 玲 担当形態： 複数
科 目	特別支援教育に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標			
授業のテーマ			
・ 適応指導教室等での教育相談を定期的に担当する。 ・ 適応指導教室等に通う児童・生徒の支援に関連して、スクールカウンセラーをはじめとする学校内外の援助資源との連携を含めたチーム・アプローチの導入・展開を体験し、他の教職員と協働する力を育成する。			
到達目標			
・ 特別支援教育の視点から、援助ニーズを有する児童生徒や保護者の教育相談を実施できる。 ・ 適応支援について、適切に自己評価できる。 ・ 特別支援教育の視点から、援助ニーズを有する児童生徒や保護者の教育相談を試みようとする。 ・ 適応支援について、自己評価できる。			
授業の概要			
・ 適応指導教室等を定期的に訪問し、教育相談及び特別支援教育の視点から、相談・学習支援をはじめとする日常的な適応援助を行う。特別な教育的ニーズのある個別のケースについて、スクールカウセンラーをはじめとする、学校内外の援助資源と連携し、チーム・アプローチの導入・展開の具体を学び、他の教職員と協働する力を育成する。			
授業計画（期間中 10 回大学にて実習生合同での学び合いの機会をもつ）			
・ 週 1 日×1 日 8 時間×15 週＝120 時間 ・ 事前指導 4 時間 事後指導 11 時間 計 135 時間			
＜事前指導：4 時間＞			
第 1 回：大学において、本実習の概要、目的等について理解する。（2 時間）			
第 2 回：適応指導教室に事前訪問を行い、概要・実習の参画の仕方等を理解する。（2 時間）			
＜適応指導教室実習：120時間＞			
第 1 回：オリエンテーション、適応指導教室施設説明等			
第 2 回：個別相談の形態でのアセスメントの実施			
① 教育相談（子ども），学習指導，諸行事の補助			
第 3 回：個別相談の形態でのアセスメントの実施			

② 保護者面接陪席，ケース会議陪席，各学校との打合せや支援会議陪席 第4回：個別相談の形態でのアセスメントの実施 ③ 記録の整理，担当ケースの支援計画立案 第5回：ケースレポート（支援計画部分まで）の提出 中間報告会の実施（予定日調査と実習先への依頼は院生が行う） 第6回：教育相談（子ども）の実施，学習指導の実施 第7回：教育相談（子ども）の実施，学習指導の実施 ① 人間関係づくりをめざすワーク 第8回：教育相談（子ども）の実施，学習指導の実施 ② ケースの要因となる事象の事例研究 第9回：教育相談（子ども）の実施，学習指導の実施 ③ 諸行事等の補助 第10回：教育相談（子ども）の実施，学習指導の実施 ④ 保護者面接（陪席） 第11回：教育相談（子ども）の実施，学習指導の実施 ⑤ ケース会議等陪席 第12回：教育相談（子ども）の実施，学習指導の実施 ⑥各学校との打合せや支援会議陪席 第13回：記録の整理，ケースレポートの作成 第14回：ケースレポート（実習の成果と課題を含む）の提出，実習最終報告会準備 第15回：実習最終報告会の実施（予定日調査と実習先への依頼は院生が行う） <事後指導：11時間> 第1回：実習のまとめ（1時間） 第2回：本実習期間中に計10回のグループスーパービジョンを行う（10時間） 定期試験なし
テキスト ・ 受講者のニーズに応じて授業の中で適宜資料を配付する。
参考書・参考資料等 ・ 受講生の状況にあわせて，参考図書あるいは参考資料を紹介する。
学生に対する評価 ・ 実習校教員（適応指導教室職員）に実習生の活動をもとに所見票を書いてもらい，その所見票や実習での活動，実習態度，実習日誌，レポート等をもとに大学院の実習責任者と実習指導者が協議して最終評価を行う。

授業科目名： 特別支援教育アセスメント実習	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 3単位	担当教員名： 中山 健 牛島 玲 河村 暁
			担当形態： 複数
科 目	特別支援教育に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ			
・ 連携協力校の通級指導教室に在籍する児童生徒個人を支援対象として、特別支援教育コーディネーター等の立場を想定し、心理社会面の適応状態・学力定着度・生活態度および学級集団の状態のアセスメントを実施し、結果の整理や分析を行う。			
・ 連携協力校の通級指導教室で児童生徒個人および学級集団の状態のアセスメント結果の整理や分析を行い、学習指導や学級経営に活用できるレポートを作成する。			
・ 作成したレポートをもとに連携協力校職員に対して、子どもの個人単位の資料整理手法を提案する。			
到達目標			
・ 通級指導教室に在籍する個人の特別な教育的ニーズを精緻に把握するため、心理社会面の適応の状態・学力定着度・生活態度と学級集団の状態のアセスメントの実施や結果の整理や分析を行える。			
・ アセスメントの分析に基づいた支援計画をたて、学習指導や学級経営に活用できるレポートを作成できる。			
・ 適応支援について、適切に自己評価できる。			
・ 通級指導教室の個人の心理社会面の適応の状態・学力定着度・生活態度と学級集団の状態のアセスメントの実施や結果の整理や分析を試みようとする。			
・ 特別支援教育コーディネーター等としての特別な教育的ニーズへの支援について、自己評価できる。			
授業の概要			
連携協力校の通級指導教室のすぐれた指導に学び、特別支援教育コーディネーター等の立場を想定し、個人の適応状態・学力定着度・生活態度および学級集団の状態のアセスメントを実施し、結果の整理や分析を行い、個に応じた支援に活用できるレポートを作成する。また、個別のケースでの自立活動の指導に加え、教科補充の指導に取り組む。対象児の保護者・在籍する通常学級担任・他の通級指導教室担当教員と連携したチーム・アプローチを体験し、関係者の協働のあり方を学ぶ。これらをもとに、連携協力校職員に対し、子供個人単位の情報整理手法を提案する。それにより、特別支援教育に関する研修会等を開催し、人材育成に貢献する力量を高める。			
授業計画（期間中 10 回、大学でのグループスーパービジョンで実習生合同での学び合いの機会をもつ）			
※週 1～2 日×1 日 8 時間×8～15 週=120 時間 事前指導 4 時間 事後指導 11 時間 計 135 時間			
事前指導（各 2 時間）			
第 1 回：大学において、本実習の概要、目的等について理解する。			
第 2 回：連携協力校等において、学校の概要、実習の参画の仕方等を理解する。			
連携協力校等			
第 1 回：連携協力校における特別支援教育および特別なニーズのある児童生徒の支援の全体についてオリエンテーションを受ける。			
第 2 回：特別支援教育コーディネーター等の立場を想定し、連携協力校の実態把握（TT として授業担当、教育相談室での教育相談活動など）を通して、フォーマルなアセスメントに向け課題を明確化する。中間報告会の予定日調査と実習先への研修会実施の依頼をする。			
第 3 回：校内研修会①（中間報告会）の資料収集（教育目標に関連する資料や不足資料の確認など）を行う。			
第 4 回：校内研修会①（中間報告会）に向け、WISC や K-ABC の個別検査等の結果を分析解釈し、付加すべきアセスメントを検討する。			
第 5 回：校内研修会①（中間報告会）の資料収集（教育目標に関連する資料や不足資料の確認など）WISC 又は K-ABC の個別検査の結果を分析解釈し、指導計画を作成する。			
第 6 回：校内研修会①（中間報告会）「アセスメントと試行的支援の提案」の実施、事後処理（不足資料の収集と、資料整理のための諸準備）、今後の方針の確認を行う。			

第7回：校内研修会①（中間報告会）のフォローアップ。中間報告の協議をふまえ、対象児の教育援助に役立つ支援策を修正した後、校内の関係者と確認のうえ実際の支援を行う。 第8回：校内研修会②（最終報告会）の準備（教育目標に関連する資料や不足資料の確認など）。試行的に実施している支援の進捗を確認し関係者と共有する。 第9回：校内研修会②（最終報告会）の資料収集（教育目標に関連する資料や不足資料の確認など）。最終報告会の予定日調査と実習先への研修会実施の依頼をする。 第10回：校内研修会②（最終報告会）の資料収集（教育目標に関連する資料や不足資料の確認など）、中間報告会で提案した試行的支援を校内の関係者に確認したうえで実施する。 第11回：校内研修会②（最終報告会）の資料収集（教育目標に関連する資料や不足資料の確認など）、中間報告会で提案した試行的支援を継続的に実施し、進捗を共有する。 第12回：校内研修会②（最終報告会）の企画と準備（資料にもとづく支援計画の有無やその内容の確認、支援計画立案のための手順の検討など） 第13回：校内研修会②（最終報告会）の打合せと実施準備 第14回：特別支援教育コーディネーター等の立場を想定し、校内研修会②（最終報告会）「アセスメントにもとづく計画立案」の実施（計画立案の方法と留意点、校内ワークショップの計画など）。 第15回：校内研修会②（最終報告会）の事後処理と成果の確認（立案された計画の実施手順の検討、連携協力校の教員のコメント整理など） 事後指導：大学（期間中10回（計10時間）の学び合いを含む） 第1回：実習のまとめ（1時間）
定期試験なし
テキスト 受講者のニーズに応じて授業の中で適宜資料を配付する。
参考書・参考資料等 受講生の状況にあわせて、参考図書あるいは参考資料を紹介する。
学生に対する評価 連携協力校管理職及び特別支援教育コーディネーターなどの教員に実習生の活動をもとに所見票を書いてもらい、その所見票や実習での活動、実習態度、実習日誌、レポート等をもとに大学院の実習責任者と実習指導者が協議して最終評価を行う。

授業科目名： 特別支援教育システム 化実習	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 中山 健、牛島 玲 河村 暁 担当形態： 複数
科 目	特別支援教育に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ ・高い個別の教育的ニーズを有する児童生徒を中心に、在籍校等の普通学級での個人・集団の適応状態のアセスメントを実施し、得られた資料の資料整理手法や合理的配慮の提供について提案する。 ・学校外の教育支援機関を訪問し、教育支援システムを見学して、特別支援教育の視点から学校での適切な指導と必要な支援に活用できる点を検討する。 ・在籍校等の普通学級、特別支援学級、通級指導教室を対象に、特別支援教育全般の総合的な機能向上策の案を作成・提案し、可能な範囲で取り組みを支援する 到達目標 ・アセスメントの分析に基づいた支援計画をたて、学習指導等に活用できるレポートを作成できる。 ・適応支援および教育的ニーズに基づいた指導と支援について、適切に自己評価できる。 ・特別支援教育の校内体制構築と改善のための評価と提案ができる。 ・アセスメントの分析に基づいた支援計画をたて、学習指導や学級経営に関するレポートを作成できる。 ・適応支援について、自己評価できる。 ・特別支援教育の校内体制構築と改善のための提案ができる。 授業の概要 在籍校等において、特別支援教育における1次～3次の援助サービス提供全般の改善策を提案し、具体的な取り組みを実践する。特別支援教育に関する、若年層教員等の支援力向上に資する取り組みを行う。学校外の教育支援機関（特別支援学校など）を訪問し、教育システムを体験して、学校での個別の指導や支援と環境調整に活用できる点を検討する。特別支援教育のシステム化を促進させる研修会を開催し、人材育成に貢献する力量を高める。 授業計画（事前事後指導は別途授業等で実施） ※週1日×1日6時間×15回=90時間 計90時間			

- 第1回 普通学級で、個別の教育的ニーズを有する児童生徒を中心に個人の適応状態・学力定着度・認知行動特性・生活態度、学級集団の状態のアセスメントを実施する。
- 第2回 普通学級で、個別の教育的ニーズを有する児童生徒を中心に、学級集団の状態のアセスメントを実施する。
- 第3回 特別支援教育を中心に、関連する生徒指導、教育相談、学級経営、学習指導にも活用できるように、アセスメント結果を整理する。
- 第4回 校内研修会①で、個別の教育的ニーズを有する児童生徒を中心に、子どもの個人単位の資料整理手法を提案し、実施に向けての準備を行う。
- 第5回 提案した資料整理法を学校で可能な範囲で実施できるように、支援する。
- 第6回 提案した資料整理法の実施後の成果と課題をまとめる。
- 第7回 学校外の教育支援機関の特徴や実態を見学・体験し、学校での個別の指導と支援および環境調整に活用できる点を検討して、学校での特別支援教育の充実に活用できる点をレポートにまとめる。
- 第8回 特別支援教育における三次的視点を中心に、生徒指導・教育相談機能の向上を図るための実態を確認する。
- 第9回 特別支援教育の観点から、予防・開発の側面も含めた総合的な生徒指導・教育相談機能の向上を図るための実態を確認する。
- 第10回 校内研修会②において、在籍校等の具体的な取り組みとして、特別支援教育を基盤とした校内体制づくり、カリキュラム整備、校内研修推進などを提案する。
- 第11回 校内研修会②の提案内容を、可能な範囲で実践する。
- 第12回 校内研修会②での提案後の状況について、関係者から資料を収集する。
- 第13回 次週の成果と課題に関する資料を収集する。
- 第14回 成果と課題をケース・レポートにまとめる。
- 第15回 各人の成果と課題の発表と、実習全体の成果と課題の検討

定期試験なし

テキスト

受講者のニーズに応じて授業の中で適宜資料を配付する。

参考書・参考資料等

受講生の状況にあわせて、参考図書あるいは参考資料を紹介する。

学生に対する評価

在籍校等管理職及び教員に実習生の活動をもとに所見票を書いてもらい、その所見票や実習での活動、実習態度、実習日誌、レポート等をもとに大学院の実習責任者と実習指導者が協議して担当指導教員が、その所見票や実習での活動、実習態度、実習日誌、レポート等をもとに最終評価を行う。